夏休みおすすめ図書　～小学校1・2年生向け～

「いぬかって！」

のぶみ // 岩崎書店　Ｅノ

かんたろうは、ペットショップで見た犬がほしくなり、お母さんにねだりますが、小鳥のピピちゃんがいることを理由にダメと言われます。どうしても犬がほしいかんたろうは、ピピをじゃまに思ってしまうのですが、次の日にピピが死んでしまいます。ピピが死んだのは、自分があんなことを思ったからだ…と後悔しますが...

「おとうさんの手」

まはら　三桃 // 作　長谷川　義史 // 絵　講談社　９１３マＣ

かおりのお父さんは、目が見えません。でも、お父さんは何でも分かってしまいます。においや音、指先、空気、感覚で、目で見ているように分かります。そんなお父さんを不思議に思っているのですが、「耳をすましてごらん」というおとうさんの一言で、今まで感じることのできなかった分からないことが、少しだけ分かるようになります。

「さかさまになっちゃうの」

クレア・アレクサンダー // 作　福本　友美子 // 訳　講談社　Ｅア

先生のお手本どおりに字が書けないアルフィー。みんなはちゃんと書けるのに、どうしても字がさかさまになってしまう。みんなが笑うかもしれないと思うと、教えてほしいと先生に言い出せなくて…。

「じゃんけんのすきな女の子」

松岡　享子 // 作　大社　玲子 // 絵　学研教育出版　９１３マ

とてもじゃんけんのすきな女の子がいました。だれとでもじゃんけん、何を決めるにもじゃんけん。ある日、とてもだいじなことを決めるじゃんけん勝負がまっていました! 女の子とねこのじゃんけん対決のおはなし。

「えんにち奇想天外」

斎藤　孝 // 文　つちだ　のぶこ // 絵　ほるぷ出版　Ｅツ

おじいちゃんと子どもたちが縁日に出かけて、「五臓六腑にしみるねー」「電光石火のはやわざ」などの会話を繰り広げる四字熟語絵本。

「アンナの赤いオーバー」

ハリエット・ジィーフィールド // 文　アニタ・ローベル // 絵　評論社　Ｅロ

貧しい世の中で生活するアンナ。彼女は自分が着るコートを手に入れたいのですが、手に入れるまでには、いくつもの過程を経ていくことを、自らの経験を通じて知るようになります。２０年以上前の課題図書です。

「皇帝にもらった花のたね」

デミ // 作・絵　武本　佳奈絵 // 訳　徳間書店　Ｅデ

世継ぎがいない皇帝は、国に住む子どもたちに花のタネを配り、育てさせ、立派な花を咲かせた者を世継ぎにすると宣言します。実は、配った花のタネは育てても芽が出ないのですが、それを知らない多くの人々は別な物に差し替えます。ピンという男の子も一生懸命花のタネを育てますが、みんなと同じく芽が出てきません。しかし、ピンは別な物に差し替えをせず、芽が出てこないことを正直に皇帝に伝え、花が咲かせることができなかったことを話します。すると皇帝は・・・・。

「すてきな三にんぐみ」

トミー・アンゲラー // 作　いまえ　よしとも // 訳　偕成社　Ｅス・Ｅウ

黒マントに黒ぼうしがトレードマークで、宝集めに夢中だった三人組の泥棒が、すてきなことを思いつきました…。国際アンデルセン賞受賞画家の絵本。

「トラのじゅうたんになりたかったトラ」

ジェラルド・ローズ // 文・絵　ふしみ　みさを // 訳　岩波書店　Ｅロ

インドのジャングルに棲んでいた痩せこけたトラは、宮殿の広間でおいしそうに食事をしている王さまと家族がうらやましくてたまりません。ある日、トラはとんでもないことを思いつき…。

「おひさまやのテーブルクロス」

茂市　久美子 // 作　よしざわ　けいこ // 絵　講談社　９１３モＣ

うさぎのお店「おひさまや」には、かたづけるのが苦手な人のためのものが置いてあります。かたづけが苦手な小学１年生のはるかは、「おひさまや」で黄色いテーブルクロスをすすめられて…。

「あたし、うそついちゃった」

ローラ・ランキン // 作　評論社　Ｅラ

ルースはちっちゃなものがだいすき。いつもポケットにはちいさなたからものをもっている。ある日、校庭でちっちゃなカメラをひろいました。そのカメラであそんでいると、マーティンがやってきて、「それ、ぼくのだよ！」と言いました。でも、ルースは「ちがう、あたしのだもん！」と言ってしまったのです…。ウソをついてしまったルースはどうなるのでしょうか？

「たいくつなトラ」

しまむら　ゆうこ // 文　たるいし　まこ // 絵　福音館書店　Ｅタ

おもちゃ屋のぬいぐるみのトラのところへ、「立派なトラになりたい」という子猫が弟子入りします。憧れのトラになるために、子猫は不器用ながらもけんめいに修行に励みます。いつのまにか子猫とのやりとりが、毎日たのしみになるトラでした。

ある日、木に登れという修行で、子猫は見事に木に登って見せます。トラはその姿を見て、ぬいぐるみの自分は動けない事に苛立ちを感じてしまい、子猫に冷たくしてしまいます。その冷たくしてしまったことで、子猫は大ピンチに！トラは助けてあげることができるのでしょうか？

「りんごかもしれない」

ヨシタケ　シンスケ // 作　ブロンズ新社　Ｅヨ

目の前にあるのは一つの赤いりんご。でも、もしかしたらそう見えるだけで、本当は違うかもしれない。そう思い始めたらもう止まらない。メカかもしれない、罠かもしれない、「あ」んごかもしれない、「い」んごかもしれない・・・？

☆ひとつのりんごからどこまで想像力を広げられるか。みなさんなりの「もし・・・だったら」を考えてみると楽しいかもしれません。

「のっぺらぼうのおじさん」

そうま　こうへい // 作　タムラ　フキコ // 絵　講談社　９１３ソＣ

夜の公園で出会った似顔絵描きのおじさんは、実はのっぺらぼう。

「顔を描いてくれ」と言われたぼくは、勇気を出して絵筆を握り、おじさんの顔を描きはじめた・・・・・。ちょっとこわくて、心あたたまるお話です。

「ななとさきちゃんふたりはペア」

山本　悦子 // 作　田中　六大 // 絵　岩崎書店　９１３ヤC

ななはぴかぴかの１年生。１年生と６年生はペアを組むことになっています。
１ 年間一緒に遊んだり、勉強したりする相手はどんな人かな？楽しみにしていたななだけど、思っていた人とは違って・・・・。心があたたかくなるお話。

「しゅくだいさかあがり」

福田　岩緒 // 作・絵　ＰＨＰ研究所　９１３フC

「さかあがりのできない子は、夏休みのしゅくだいにする」と先生に言われたけれど、夏休みに入ったとたん、さかあがりの事を忘れてしまったゆうた。夏休みはあと１週間。
さかあがりはまだ１回もできていない。何度やってもできないゆうたは、「もう練習なんかするもんか！」と思ったけれど・・・。

「ごきげんなライオン　すてきなたからもの」

ルイーズ・ファティオ // 文　ロジャー・デュボアザン // 絵
今江　祥智＆遠藤　育枝 // 訳　ＢＬ出版　Ｅデ

動物園で人気者のライオン。動物園にやってくるお客さんからも、園の動物達からも大人気です。ある日動物達は、人気者のライオンに遺言状を書く事を提案します。
でもライオンは、動物達に何をのこしてあげられるのか分かりません。そんな時、仲良しの飼育係の息子フランソワくんに、「きみはとってもすばらしい宝物をもっているよ」と教えられて・・・。

「へいわってすてきだね」

安里　有生 // 詩　長谷川　義史 // 画　ブロンズ新社　Ｅハ

この詩は、２０１３年当時小学１年生だった安里有生（あさとゆうき）くんが書いたものです。
同年６月２３日、沖縄全戦没者追悼式で「平和のメッセージ」として朗読しました。
「へいわって なにかな。ぼくは、かんがえたよ。おともだちと なかよし。かぞくが、げんき。えがおで、あそぶ。」 子供らしいまっすぐで素直な表現…平和への願いを込めた純粋な言葉が、心を打ちます。

「おさきにどうぞ」

森山　京 // 作　ささめや　ゆき // 絵　文溪堂　９１３モＣ

公園までの細い一本道を急いでいたブタの子。前にはつえをついたネコのおばあさんがゆっくりと歩いています。「こまったな」と思いながら近づいていくと、おばあさんは「おさきにどうぞ」と道をゆずってくれました。その言葉が印象に残ったブタの子は、公園で友だちに「おさきにどうぞ」と言ってみたところ･･･。

「ネコのピート　だいすきなよっつのボタン」

エリック・リトウィン // 作　　ジェームス・ディーン // 絵
大友　剛 // 訳　ひさかたチャイルド　Ｅデ

ネコのピートは、カラフルでかっこいい４つのボタンがついたこのシャツが大好き。ところが・・・なんてこった！ボタンがひとつ、またひとつととれちゃった！！さて、ボタンが全部なくなっちゃって、ピートは悲しんだでしょうか？

「家出しちゃった」

藤田　千夏 // 作　夏目　尚吾 // 絵　文研出版　９１３フＣ

「もう　うちの子じゃ　ありません。」　かあさんにしかられた。じゃ、出ていくよ。家出してやる！パジャマとハブラシ、パンツにくつ下…。リュックに詰めて家を出たけど、さあ、どこに行こう？

大人から見たら小さな出来事。でも、子どもには大冒険！みんな一度は経験したことがありそうなお話。

「そつぎょう　ふくしまからきた子」

松本　猛・松本　春野 // 作　松本　春野// 絵　岩崎書店　Ｅマ

原発事故のあと、お母さんと２人で広島へ引っ越したまや。おじいちゃんのお祝いに久しぶりに福島に帰ってきました。今日は、前に通っていた学校の卒業式です。自転車で学校に行ってみると…。

★　原発事故の影響で、今まで住んでいた土地に住めなくなった子のお話です。

当時小学生だった子がもう中学生になっています。時間はあっという間に流れるけれど、あの辛い震災を忘れてはいけないと思いました。

「ラチとらいおん」

マレーク・ベロニカ // ぶん　福音館書店　Ｅラチ

気が弱くておくびょうな男の子、ラチ。お友達もなかなかできません。ある日、ラチは小さなライオンに出会います。ただのライオンではありません。とても強いライオンです。ラチはライオンと一緒に今まで怖かった色々なことに挑戦します。ラチは強くなれるでしょうか。

「ゴロジ」

戸田　和代 // 作　石倉　欣二 // 絵　学研　９１３トＣ

「ぼく」の大切な猫のゴロジ。ずっと家族のように暮らしてきたのに、新しい引っ越し先では猫が飼えないらしい。ゴロジは絶対に置いていかない！！と思っていたのに、次の日の朝ゴロジがいなくなっていた。引っ越し当日になってもゴロジは見つからなくて・・・。

「ぼく」と猫のゴロジの心あたたまるお話です。

「ねこと友だち」

いとう　ひろし // 作　徳間書店　９１３イト

ノラネコとして生きてきたねこ。一人暮らしのおばさんにかわれるようになり、「ブータレ」と名付けられました。おばさんの家には、ちいさな金魚鉢の中に魚が２匹いました。ねこは、その魚の夫婦と友達になりました。毎日たくさん話をしました。ある日ねこは、金魚鉢から飛び出している魚をみつけました。その魚を助けようとした時、ねこは変な気持ちになりました。

ねこの姿を通して友達のことを考え、友達のことが好きになる物語です。

「きょうはやきにく」

いとう　みく // 作　小泉　るみ子 // 絵　講談社　９１３イＣ

日曜日の松坂家。今日の夕飯は、松坂牛。みんなで盛り上がって楽しみにしているけど、おいしく食べるそのための準備って？どこに出かけるの？

イラストもあるので、楽しさやおいしさが、たっぷり伝わる物語になっています。

読んだあと、自分の家だったら、なんのメニューだと喜ぶかなって思うと思います。食べ物のまめちしきもありますよ。

「一さつのおくりもの」

森山　京 // 作　講談社　９１３モ・モリＣ

動物たちの村に、熊の男の子が住んでいます。男の子には、とても大切にしているお気に入りの絵本があります。１日に１度は必ず手にとります。そんな時、となりの山の村で雨が降って、ひなんしている動物たちに、持っている絵本を届けようということに。でも、やぶけていて、とてもあげられません。大切にしている絵本だけが、きれいでした。このお気に入りの絵本を、あげるかどうか悩みます。
自分の大切にしている物を、人におくったり、貸してあげたり出来るか、考える一冊です。

「きつねのゆうしょくかい」

安房　直子 // 作　菊池　恭子 // 絵　講談社　９１３アワＣ

きつねの女の子は、コーヒーセットを買ったので、人間のお客を呼びたいと、父さんきつねに言いました。そう、父さんも子どものころにそう思ったことがあります。家の中を準備して、お客を探しに出かけます。もちろん人間に姿をかえて。

さあ、訪ねてきた人間のお客さんと一緒にゆうしょくかいが、はじまります。どうしてでしょうね、食べ物の好みもぴったり。とても楽しそうなゆうしょくかいのお話しです。

「ちょっとおんぶ」

岩瀬　成子 // 作　北見　葉胡 // 絵　講談社　９１３イＣ

つきちゃんは６歳の女の子。小学校に通っています。

そんなつきちゃんは不思議なことに、動物たちの話す声を聴くことができます。
自分に向けて話してくれる言葉、動物同士で話す言葉があふれています。

つきちゃんは、かわいらしいクマさん、きつねの赤ちゃん、トンボに貝、たくさんの生き物たちとお話しをして、お友達が増えていき、優しいお姉ちゃんになっていきます。

毎日の時間の中で、少し立ち止まって、いつも見ない風景や音に目を向けたり、耳をすませてほしいなと思う１冊です。

「おじいさんのしごと」

山西　ゲンイチ // 作　講談社　Ｅヤ

しんでしまった、ケンタくんのおじいさん。てんごくへのかいだんのとちゅう、ケンタくんがまだないていないか、しんぱいをしています。やがてたどりついたてんごくには、たくさんのねこが！

まちがえてきてしまった‘ねこのてんごく’。めんどくさがりのおじいさんは、そのまま‘ねこのてんごく’にいることにします。ですが、あんないやくとなったしろねこから、てんごくにもしごとがあるといわれて…。

「魔女のたまご」

マデライン・エドモンドソン // 作　ケイ・シューロー // 絵　掛川　恭子 // 訳
あかね書房　９３３エド

アガサという名前の、意地っ張りで、へそ曲がりの魔女がいました。友達は１人もいません。仕事は、町の人を怖がらせること。ある日、仕事を終えて家に帰ると、鳥のたまごがひとつ…。アガサは何日も温め、かえし、マジョドリと名前をつけ、はじめての友達と毎日楽しく過ごします。しかし巣立ちの時がやってきます。別れに涙を流すアガサ…。

孤独だった魔女が、誰かと一緒にいることの幸せを知りました。ふたりの絆にあたたかい気持ちになれます。

「おじいさんは川へ　おばあさんは山へ」

森山　京 // 作　ささめや　ゆき // 絵　理論社　９１３モ

はて？どこかできいたようなだいめいですね。絵もほのぼのしています。
おじいさんとおばあさんが、それぞれ体験したふしぎなおはなし。

よめばよむほど、あの絵本やこの絵本の話にそっくりです。さて、いくつのおはなしがかくれているかな？

「本気でやれば、なんでもできる！？」

ジョン・ヨーマン // 作　クェンティン・ブレイク // 絵　三原　泉 // 訳
徳間書店　９３３ヨ

小学生の男の子ビリーは、集中するのが苦手。でも先生にある一言を言われて、少しその気になっていました。すると友達に「頭に角をはやせる？」と言われて、思わず出来ると答えてしまいます。ビリーは先生になんて言われたんでしょうね。そして頭から角をはやせるのか。

イギリスのお話なので、学校の様子が違うところもおもしろいと思います。

「とうふやのかんこちゃん」

吉田　道子 // 文　小林　系 // 絵　福音館書店　９１３ヨC

とうさんのつくるとうふを「うまい！」と言ってくれるお客さんがたくさん来てくれるといいなあ…そう願う、とうふやの娘かんこちゃん。そんなある日曜日の昼下がり、ふしぎなお客さんが訪れました。おいしい豆腐の作り方をでんじゅしてあげようと、とうふの歌まで教えてくれて…。葉っぱの枚数で味見の感想を伝えてくるそのお客さんとは…？

とんがり山のふもとのとうふやさんで起きたふしぎなできごと。家族のきずなやあたたかさ、目標に向かってがんばる清々しさを教えてくれる物語です。

「おばけのなつやすみ」

吉田　純子 //作　つじむら　あゆこ // 絵　あかね書房　913 ヨC

こわがり　こわがりおばけのポーちゃんは、おばけしょうがっこうに通っています。夏休みになり、こわがりをなくすため、『空をとべるようになりたい』と、しゅくだいの目標をたてました。

そこで、空とぶおばけに教えてもらうため外へでてみると、おばけじまから逃げてきた３人のわるいおばけに出会ってしまいます・・・。ポーちゃん、どうなってしまうのでしょうか？

「おとのさま、小学校にいく」

中川ひろたか // 作　田中六大 // 絵　佼成出版社　913Cナ

小学校にいったことのないおとのさま。
とうこうする子どもたちを見て小学校にいきたくなってしまいました。
校長先生におねがいして一日だけ小学生になったおとのさまは、ウキウキワクワクでランドセルやぶんぼうぐをかいます。
さてさて・・・おとのさまは楽しい小学校せいかつをおくれるでしょうか。

「海のアトリエ」

堀川理万子 // 著　偕成社出版　Ｅウミ

居心地のいいおばあさんの部屋に飾ってある女の子の絵。「おばあちゃん、この子はだれ？」って聞いてみたら「この子はあたしよ」って教えてくれた。びっくりする女の子におばあちゃんは「ちょうどあなたぐらいの年だったわ」と、海のアトリエに暮らす絵描きさんと過ごした特別な夏の思い出を話してくれます。
画家でもある作家の描く絵も素敵な絵本です。

「つくしちゃんとおねえちゃん」

いとう　みく // 作　福音館書店　９１３イ

おねえちゃんは、あたしより二つ年上の四年生です。ピアノも上手で、勉強もできる、おまけにまけずぎらいのがんばりや。そんなおねえちゃんは、わたしのじまんです。でも、ときどきいじわる…。今日も、いっしょに学校へいくとき、「朝おきるのがおそい」「時間わりをそろえていない」と言われ、思わず「走っていけば、まにあうもん！」と言ってしまします。おねえちゃんは、少し右足をひきずるので、走るのが苦手なのです…。そして…。
★おねえちゃんと、いもうとのむねが「きゅん」とくるおはなしです。

「でんでんむしのかなしみ」

新美　南吉 // 作　井上　ゆかり // 絵　保坂　重政 // 編
にっけん教育出版社　Ｅデン

いっぴきのでんでんむしが自分のカラにかなしみがいっぱいつまっていることに気づき、そのことをお友達のでんでんむしに話していく・・・
上皇后美智子さまが「思いがけないときに何度も記憶によみがえってきた」とかたられた作品。
かなしみを背負っているのは自分だけではないことを伝えてくれる絵本です。

「まほうのじどうはんばいき」

やまだ　ともこ // 作　いとう　みき // 絵　金の星社　913 ヤＣ

学校のかえりみち、こうへいがみつけた　かわったじどうはんばいき。赤や青や黄色にぬられていて、ボタンとうけとり口があるだけ。いったい、どんなはんばいきなのかな？

「わっはは ぼくのなつやすみ」

おの　りえん // 作　タダ　サトシ // 絵　こぐま社　Ｅワツ

夏休み、おじいちゃん家に、はじめてひとりで泊まる男の子。
昆虫にくわしいおじいちゃんと一匹のちょうちょに、『ようこそ』と、むかえられて、ドキドキとワクワクの夏のはじまりです。絵本のさいごには・・・。
この絵本をよんでみて、子どものころに、クワガタやカブトムシをつかまえて楽しかったことを思い出しました。

「物語王さまとかじや」

ジェイコブ・ブランク // 文　ルイス・スロボドキン // 絵
八木田　宜子 // 訳　933 ブＣ

やりたいことを好きにさせてもらえない８歳の王さまが主人公。
なんでも大臣たちのいうとおりにしなければならないのを、とてもきゅうくつに思っていました。
すべて大臣たちの言いなり・・・かと思いきや、実は彼らが思っているより賢かった王さま、大臣たちをどうやって黙らせたのでしょうか・・・？

「だいじょうぶくん」

魚住直子／作　朝倉世界一／絵　ポプラ社　913ウC

新しいクラスになじめないでいたそうた君。遊びの輪に入れてもらいたいのに、なかなか声をかけられない。そんな時、しゃべることが出来るぬいぐるみ『だいじょうぶくん』に出会う。だいじょうぶくんは「だいじょうぶだよ」とそうた君の背中をおして、そうた君の持っているやさしさや勇気をひきだしてくれる。

ほんわか、優しい気持ちになれるお話です。

「３かいなかしたろか」

くすのき　しげのり／作　石井　聖岳／絵　東洋館出版社　Ｅサン

となりのせきの　たかのりくんは、いつも、えらそうにしている。
さんすうのとき、「ここ、まちがえてるで！　しっかりもんだい　みなよ。」なんて、いってくる。

あるひのやすみじかん。たかのりくんのかおに、ボールがぶつかった。たかのりくんは、おおきなこえでなきだした。そのとき、ぼくは…。

「かさこそ森の気どりやキツネ」

有島　なさ／作　北見　葉胡／絵　ポプラ社　913アC

太一の家には大きなクヌギの木がある。おばあちゃんが大切にしている木で「かさこその木」と呼んでいる。親の都合で夏休みに引っ越しをすることになった太一は、おばあちゃんや友達と離れたくなくて落ち込む。そんな時「かさこその木」を通じて不思議な感覚を感じた太一はこの木が欲しくなる。

なぜこの場所に生えているのか？なぜ不思議な感じがするのか？太一は木の謎を知り、種を手に入れることができるのか！人とのつながりを考える事ができる作品です。

「なつやすみ」

麻生　知子／作　福音館書店　Ｅナツ

こうたくんの家に、いとこのゆうこちゃんと、としのぶくんの家族が、とまりに来ました。

近くのプールへ遊びに行ったり、お昼ごはんを食べたりと、夏の１日をすごします。夜は、近くの神社のお祭りに行くのですが・・・。

観音開きのページがあり、ユニークな構図で描かれた絵本になっています。

「ぼうけんはバスにのって」

いとう　みく／作　山田　花菜／絵　金の星社　913イＣ

夏休みなると、タクはねえちゃんと二人でやまなしのばーちゃんちへいくのをたのしみにしています。ところがねえちゃんが「今年は じゅくがあるから　いかない」といきなりいいだします。タクはひとりでも行くというが、おかあさんに　「ダメ！」といわれてしまいます。

あきらめかけたが よく朝おとうさんに「タク　ひとりで　行ってみるか？」といわれ、ひとりでいくことに。ねえちゃんも なにを思ってか きんちゃくぶくろを タクに手わたします。

はじめてのひとりたび ドキドキしながら高速バスに乗り込むタク ぜひ タクになったつもりで読んでみてください。

「バスが来ましたよ」

由美村　嬉々／文　松本　春野／絵　アリス館　Ｅバス

わたしは、目が見えません。わかいときに、目の病気になってしまったのです。歩くときは、つえで前をたしかめながら、一歩ずつ一歩ずつ、すすみます。

一人でバスにのり仕事に通っていたある日のことです。バス停でバスをまっていると、「バスが来ましたよ」と、小学生の女の子がおしえてくれました。女の子は、いっしょにバスにのり、わたしと同じバス停でおりました。それから毎日、女の子が声をかけてくれるようになりました。そして・・・。

「ふたりはとっても本がすき!」

如月　かずさ／作　いちかわ　なつこ／絵　小峰書店　913 キ C

夏休みの読書感想文の宿題を書くことになったチッタちゃんとヒッポくん。チッタちゃんは読むのが早く、たくさんの本を読むタイプ。ヒッポくんはじっくりと、同じところを何度も読み直すタイプ。それぞれ読み方は違うけれど、お互いの良さを認め合うふたり。そんな正反対のふたりは、読書感想文を書くためにどんな本を選ぶのでしょうか。本を通して友情が深まっていく物語です。